

タスカーレーサからロボコンへ 世界へ飛び出す私の挑戦

玉田 綾さん（東邦大附属東邦高校）に話を聞きました

アメリカで4月に開かれたロボットコンテストに千葉県の中高生チームが参加、見事入賞したと、しばらく前にニュースになった。そのメンバーに2年前の青少年海外派遣事業でタスカーレーサを訪問した高校生がいる。受験の夏で忙しい合い間に貴重な経験を聞くことができた。

▼ロボコンに挑戦

「もうホントにワクワクする経験でした」と語る玉田綾さん。東邦大附属東邦高校3年生だ。玉田さんは、県内の中高生によるロボット競技チーム「SAKURA Tempesta(サクラテンペスタ)」の一員として、4月にアメリカ・デトロイトで開かれたロボットコンテスト(以後ロボコン)の世界大会に参加、チームは新人賞を獲得した。

実は今年3月のハワイでの地区大会を突破して、デトロイトの本大会へ出場したが、その難しさと苦労は昨年からの活動のスタートからだった。

東邦高の友人で、前回のアメリカでのロボコンに参加した中嶋花音さんから話を聞いたのがきっかけだったという。それまで玉田さんはロボットには興味はなかった。友人と3人ぐらいで始めたが、最初はロボット製作もお金もどうしていいかわからず、周囲の協力者を捜した。徐々に他校の高校生など参加者は順調に増えて20人ぐらいのメンバーが集まった。千葉工大の先生や高校、企業の支援も受けることができた。高校生だけでなく、多くの大人たちとの交渉、説得はもちろん初めてのこと。アメリカの主催者とのやりとりも簡単ではなかった。参加締切が迫ると仕事は大わらわ。玉田さんたちは資金調達や手続きなどに走り回り、ロボット本体やプログラミングの担当メンバーは毎日夜中までかかってなんとか間に合った。

そしてデトロイトでの世界大会。大会は4



デトロイトでのロボコン本大会

日間、世界各国から400チームぐらいが集まって来る大規模なもの。3Dプリンターを会場に持ち込んで修理するチームもあるなど本格的でレベルも高い。大会はキューブを扱って課題に取り組む技術を競うが、評価されるのはロボット技術だけではなく、資金集めや理念なども評価の対象となる。それぞれ参加チームのコーナーには各国のさまざまな人がやってきて、ロボットの説明、またチーム運営や社会貢献などの実績や考え方を求めて来る。その対応も大事な活動だ。このさまざまな活動を同時に行うのが大会の難しさであり、また面白さだ

と玉田さんは語る。



ロボコンに出場したマシン

▼タスカルーサの経験

このロボコンでの経験は、どれもが玉田さんには考えてもいなかったことだった。

その新しい世界に目をひらくきっかけとなったのが、2年前のタスカルーサ高校生との交流とタスカルーサ滞在だ。

玉田さんは「タスカルーサの高校生が来た時に、彼らの中に入り込めなくて、とても寂しい思いがしたんです。あまり交流ができなくて、とても悔しい思いをしました」。それを思い出す。でもその時に「こんなじゃダメだ。何か話して相手に飛び込まなくては」と気がついた。そして思い切ってやってみたら、「タスカルーサのみんなも初めからとてもフレンドリーで何も問題ありませんでした」と言う。これが始まりだった。



タスカルーサで日米の高校生が交流。2016年夏

タスカルーサに行ったときも、「最初はどうしていいかわからなかったんです」。でもすぐに気をとりなおして積極的に話しかけ、行動するようにした。それから「もう楽しくて仕方がないくらい」だった。2、3日後、友人から「人が変わったね」と言われたほどだ。現地の友だちとあちこち遊びに行ったり、ホームステイの家で夜に地下室でパーティをしたり、素晴らしい毎日を過ごした。

それまで人と話すのがあまり得意ではなかったという玉田さんが、「英語で話すのが面白くなりました」と言い、「いろいろなことに興味を持ち、挑戦する気持ちが大切だと思いました」と話す。



忘れられない体験

▼これからの自分

アメリカから帰ってもロボコンの活動は続いている。ふだんの活動が大事でそれも報告する必要がある。ロボコンには関わっていききたいという玉田さんは「自分たちと同じ年代の高校生でもこんなに広くたくさんの人と何かができるんだ」と知って大きな自信になったという。しかもそれは準備や裏方だったり、自分のためだけでなく誰かのために働くこと、社会貢献でもあるのが大切だと思っている。そして自分と同じ高校生には「私もやってみたい」と思ってほしいと期待する。

タスカルーサとロボコンを通して、「外国がとても身近になりました。できれば留学もしたいし、海外で仕事もしたいです。ロボコンの経験を活かして、将来医療ロボットに関わりたと思っています」。

笑顔と「これから勉強です」の一言を残して、暑い街中に向かって歩いて行った。

(インタビュー：広報青年部会 秋山 勝)